

地域と生産者とJA広島市が協力して食農教育活動

地域の小学校や保育園・幼稚園と地元生産者、JA広島市などが協力して、子どもたちに農や食について体験し学んでもらう食農教育活動を、各地で行っています。

稲刈り

10月5日、東区の温品小学校の5年生70名は、地元生産者の川野勝之さん、純子さんの田んぼで稲刈りを体験。コロナ禍で田植えができなかった児童らは、温品支店の吉井隆支店長らから、鎌の使い方や刈り取った稲の束ね方、はぜ掛けの方法を教えてもらいながら、念願の稲刈りを楽しみました。

温品小学校



三田小学校



また、安佐北区の三田小学校では、5年生12名が地元の生産者、己斐潔さんが管理する同校グラウンド横の田んぼで、10月6日にココノエモチの稲刈りを体験しました。5月末に田植えを体験した児童らは、稲の茎数や一穂あたりの粒数を数え、生長を確認しました。

認定こども園光明学園



狩小川保育園



東区の認定こども園光明学園は、毎年地元の中石博己さんの田んぼで、稲刈り体験を行っています。今年も10月8日に年長組の94名が稲刈りを楽しみました。

伴東小学校



また、安佐北区の藤本喜代子さんの田んぼでも、10月12日に、狩小川保育園の園児たちが稲刈りに挑戦しました。

かじやま農園



いもほり

西区や安佐南区に圃場があるかじやま農園では、毎年9月下旬～11月中旬に、地域の保育園や幼稚園の園児ら約3,000名を受け入れ、サツマイモの収穫を体験してもらっています。10月20日には、安佐南区大塚の畑に、西区の

至徳ルンビニ幼稚園の園児37名が訪れ、いもほりを体験しました。

矢野幼稚園



安芸区の矢野幼稚園では、平成30年の西日本豪雨災害で土砂に埋もれた畑を地域の住民や保護者らが再生整備し、さまざまな野菜を育てています。矢野支店が苗を提供し6月に植えたサツマイモが立派に育ち、10月27日に園児25名が収穫しました。いつも畑のお世話をしてくれている地元組合員の子川優さんや矢野支店の職員とともに茂ったつるを抜き、おいもを掘っていききました。

可部保育所



また、安佐北区の可部保育所の園児は11月2日、地元農家の香川義元さんの圃場で地元の方も協力し、いもほりに挑戦。「あった!」と大きな歓声を上げながら掘り出していききました。

古田小学校



地域の特産を学ぶ



西区の古田小学校では、地元の特産「古江いちじく」を学ぶ総合学習を毎年行っています。イチジク畑の見学や学習会など、年間を通して学ぶカリキュラムに、地元の生産者や古江支店、公民館を中心に活動する古江いちじくプロジェクトのメンバーらが協力しています。10月20日には古田小学校で、生産者の鳥越博己さんがイチジク栽培などについて、またJAの小田祐司営農指導員が、流通や販売などについての出張授業を行いました。